

ふるさとふちゅう

再発見

【第66回】府中が農村だったころ（26）～江戸時代の府中村

江戸時代の府中村の様子が分かる記録に「国郡志下しらべ帳」があります。この史料は『芸藩通志』編さんのために村から提出させたものです。現代語訳で紹介します。

府中村は北東南に高い山があり、西に広がる平地は常に川水が少なく、洪水の時には出水が多い。晴れると川水が少なくなり、雨池も作っているが水不足になる。元来水が不自由で干ばつの時には助けになるものがない。山には、肥料になる肥草はない。作物は稲作と綿作が中心で、干潟が続くので適している。気候は晴れの日が多い。田畑が十分でないので武家に奉公する者や小商人も2割程度いる。この史料によると府中村民の8割程度が農民でした。土地は今と同じ真砂土で保水力が弱く、水も天候に左右され水不足になることもありました。山には肥料となる草もなく、農業には決して恵まれた土地ではなかったようです。牛馬を利用するなど工夫していたのでしょうか。作物は稲作と綿作が中心で、広い干潟に造成された新開地はその栽培に適しているとあります。猿猴川や府中大川から流れ出た土砂が堆積した干潟を干拓してできた土地には、稲と綿の栽培に適していたのでしょうか。ただ、人口に対して田畑が少なく、農業だけでは不十分なので、武家に奉公する者や小商人もいたとあります。このことは広島城下に近く、人々の往来も容易な府中村の特徴によるものともいえます。図1の写真は旧歴史民俗資料館にあった展示です。府中大川河口に広がった地で湿田も多く、作業しやすいように田下駄も使用されていました。



図1 江戸時代の農作業の様子

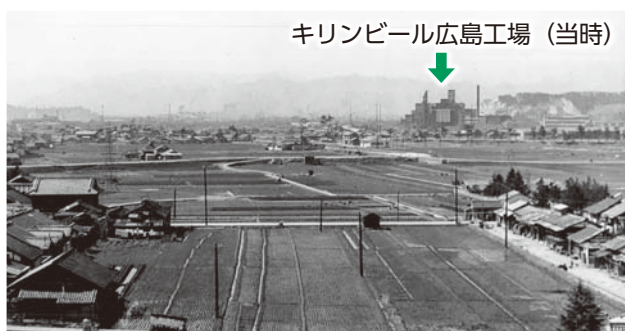
府中町文化財保護 審議会委員

菅 信博

町制施行90周年記念特別企画

あの日の風景 今の風景 #2

ふちゅうは昭和12（1937）年1月1日に町制を施行しました。来年1月1日に90周年を迎えます。今回は大須周辺の今と昔をご紹介します。



写真①



写真②



写真を提供して頂いた
まち記者 松本 清美さん

左の写真は、1960年代に町内のお寺で行われた「お稚児さん」で撮影されたもの。

写真①は約80年前に松崎八幡跡で撮影されたもので父が大切に保管していました。写真右奥にはキリンビール広島工場が見えます。周囲は田んぼやハス田だらけです。今（写真②）では田んぼは建物に変わり、新幹線の高架橋が通りました。そしてキリンビール広島工場の跡地はイオンモール広島府中になっています。

私の小さい頃は、今のスパーク浜田店の近くの水路にフナが泳いでいました。きっとこの水路にも泳いでいたんだろうと思います。また、府中大橋を「土橋」と呼んでいました。